

■ RESTECフォーラム2020の開催結果について

RESTECフォーラム2020を2020年11月19日(木)に開催いたしました。本フォーラムは昨年度まで開催しておりました技術成果報告会をリニューアルしたものです。

2019年度に実施した業務を中心に、ソリューションサービス構築に加え、技術開発及び利用等の最新の取り組みについて当財団と協業して頂いた関係者の皆様も交えたインタラクティブな意見交換をする場とすることを目的とし、Zoom Webinar や YouTube Live配信によるオンラインでの開催となりました。また、本年度のフォーラムは、昨今の状況に鑑みて「New Normal 時代への挑戦」というサブテーマを設けました。必ずしも新型コロナウイルス対応のNew Normal に限定せず、広い意味で今までの常識が変わる新しい世の中に対応した仕事の在り方を模索する一助になればという想いからです。

本フォーラムにご参加の皆様からは大変高い評価を頂いており、「気軽に参加できる」「聞きたい発表だけ聞ける」「遠方からも参加できる」などのオンラインならではの良さに関するお声も頂いております。一方で、「臨場感がなかった」「質問しにくい」「参加者間で会話できる場が欲しい」とのお声もありましたので、更にインタラクティブな開催方法への改善や新たなビジネスを創造する場の提供を今後の課題として取り組んでいきたいと考えてお

ります。また、発表内容には全般的に高い関心を頂いておりますが、中でもプラットフォームや災害といったキーワードに高い関心があったように見受けられました。リモセンを活用する環境と頻発する災害に対する対応について社会の期待が高い結果と認識し今後の活動に反映したいと考えております。

今後も皆さまと御一緒にコミュニケーションをはかりながら、協業事業等を御一緒に考えていきたいと思っております。なお、当日の発表資料はRESTECのホームページからご確認いただけますので、よろしければご覧ください。

<https://www.restec.or.jp/techreport-2020.html>



■ 衛星リモートセンシング研修の新たな取り組みのご紹介

RESTEC はリモートセンシングに対する社会的なニーズの高まりに応えるため、様々な取り組みを行っています。今回、衛星リモートセンシング研修の3つの新しい取り組みについてご紹介します。

■ 利用事例コンテンツの新設

この度、研修専用サイト「リモセン研修ラボ」へ「利用事例」ページを新設しました。衛星データを利用した課題解決の具体的な事例のご紹介とともに、応用可能な分野や、関連する研修を掲載しています。皆様のビジネス課題解決のご参考としてください。

■ e-Learning へ新科目の追加

e-Learning へ“農業関係者のためのリモートセンシング入門”と“初心者のためのリモートセンシング”の2科目を新たに追加いたしました。

“農業関係者のためのリモートセンシング入門”はユーザーである専門家の方々との意見交換を経てプログラムを作成し、活用事例の紹介やデータ解析デモ等を通して、農業への衛星データ利用のイメージを持てるような内容となっています。“初心者のためのリモートセンシング”は、リモートセンシングを初めて学ぶ方に向けた入門的な内容です。こちらはたくさんの方にリモートセンシングを知っていただきたく、無償での提供を行っています。

■ 学割の開始

コロナ禍に対応し集合研修をオンライン形式に変更したことで、全国各地の方々に受講いただいております。これを契機にさらにリモートセンシングを気軽に学んでいただきたく、学生の方を対象とした学割のサービスを始めました。この機会に是非ご受講ください。

講座内容(シラバス)や開講スケジュールなど、研修に関する最新情報は、『リモセン研修ラボ』をご覧ください。

また、ご不明な点があればお気軽にお問い合わせください。

リモセン研修ラボ:

<https://rs-training.jp/>

お問合せフォーム:

<https://rs-training.jp/contact/>

「海底探査技術開発プロジェクト(DeSET)」への採択について

海底探査のための技術開発研究を応援する

DeSET PROJECT

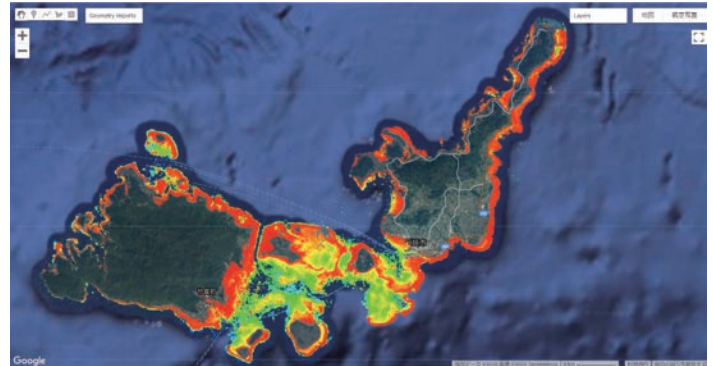


海底地形図作成を飛躍的に加速するための技術開発を支援するプロジェクト「DeSET 2020」へRESTECが参画するチームが採択されたことをお知らせします。

採択テーマ「衛星とシングルビーム測深機及び人工知能を活用した詳細海底地形図自動作成システムの開発」

DeSETとは2030年までに高精細な海底地形図の作成を目指す国際プロジェクト(Seabed2030)の目標達成のために、公益財団法人日本財団と一般社団法人日本先端科学技術教育人材研究開発機構、株式会社リバナスが2017年に立ち上げた共同事業です。RESTECはDeSET2017にも参画し、衛星画像を用いた浅海域の深度推定を行いました。

本チームでは、人工衛星やシングルビーム測深器を利用した、新しい測深データ自動収集システムを構築します。広域を高頻度にカバーできる人工衛星と漁船の魚群探知機を



用して収集した海底の地形データを、人工知能を用いて質の高い海底地形図の自動作成を行います。またチームとして、20m以浅から2500mを越える超深海底での地図作成を行い、測深精度や実用性を検証します。RESTECは20m以浅の中透明度～透明度の高い浅海域を対象としたデータ収集を担当します。

人工衛星は広大な海を「広く、面的に、定期的に」調べることを可能にする優れた道具として、海洋モニタリングや漁業の効率化と生産性向上等に活用されています。

Google主催「Geo for Good Summit 2020」への登壇について

Googleが主催するマッピングツールに関するバーチャルサミット「Geo for Good Summit 2020」にソリューション事業第二部参事奥村俊夫が登壇しました。本サミットは地図情報やマッピングツールを活用した新しい社会を創造するために、様々な組織や技術者が集い最新情報を共有する会議です。奥村はDeSET2020にも関連するテーマ、Seabed2030のための衛星とGoogle Earth Engineを活用した海底地形図作成について紹介しております。

本サミットはGeo for Good Summit 2020のサイトにてオンデマンド配信されており、奥村の登壇(「Lightning Talks Round #3」)をご覧ください。(視聴には登録が必要です。)



■ 編集後記 本号でお知らせしたRESTECフォーラムの発表内容には、地方創生や街づくりに衛星データを活用した取り組みなどがございます。本フォーラムやリモセン研修ラボの研修動画の一部をRESTECのYoutubeチャンネルで配信しておりますのでぜひご覧ください(期間限定公開の動画も含まれます)。また、HPやFBでは製品やイベントへの出展といった、最新の情報がご覧いただけます。



ホームページ



Facebook



Youtube
チャンネル